

II 研究活動と研究成果公開

(1) シンポジウム・セミナー・講演会

聖学院大学総合研究所では、研究活動の公開と内外の研究者との学術交流を深めるという目的から、毎年、シンポジウム、セミナー、講演会などの学術研究会を開催している。

2018年度から2020年度にかけて下記のシンポジウム・講演会・セミナーを主催した。なお、講演者などの所属、身分は発表当時のものである。

1. 2018年5月12日 第6回（2018年度第1回）埼玉税法研究会——関東信越税理士会認定研修（2時間）「IGS（イントラグループサービス）と課税問題」（聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室）【参加者70名】
基調講演：吉川 保弘（聖学院大学大学院政治政策学研究科特任教授）
司 会：木村 裕二（聖学院大学大学院政治政策学研究科特任講師）
2. 2018年7月20日 スピリチュアルケア研究講演会「哀しみのなかからひかりを——祈り、寄り添い、たましいの救いへ」
第1回「病院チャプレンの癒しの働き」（聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室）【参加者53名】
講演：柴田 実（聖路加国際病院チャプレン）
司会：田村 綾子（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）
3. 2018年9月10日 牧会サマーセミナー「今、語り合いたい教会のこと、牧師のこと」（聖学院大学2号館3階2303教室）【参加者29名】
発題①：香山 リカ（精神科医，立教大学現代心理学部映像身体学科教授）
発題②：堀 肇（聖学院大学総合研究所特別研究員，臨床パストラル・スーパーバイザー）

司会・コーディネーター：藤掛 明（聖学院大学総合研究所カウンセ
セリング研究 研究代表，聖学院大学心理福祉
学部心理福祉学科教授，同大学大学院教授）

コーディネーター：花野井百合子（聖学院大学総合研究所カウンセリ
ング研究センター心理相談スタッフ，臨床心理
士，公認心理師）

4. 2018年11月16日 日韓神学シンポジウム2018（第8回日韓神学者学術会
議）「キリスト教の人間論」（聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室）【参
加者37名】

セッションⅠ

講演：片柳 榮一（聖学院大学大学院客員教授）

コメント：白 忠鉉（ペク・チュンヒョン）（長老会神学大学校助
教授）

セッションⅡ

講演：金 道訓（キム・ドフン）（長老会神学大学校教授）

コメント：村瀬天出夫（聖学院大学人文学部欧米文化学科特任講師）

5. 2018年11月30日 カウンセリングシンポジウム「壁を超える本」（聖学
院大学ヴェリタス館1階教授会室）【参加者35名】

講演①：堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師，聖学院大学総合研
究所特別研究員，臨床パストラル・スーパーバ
イザー）

講演②：松谷 信司（株式会社キリスト新聞社 代表取締役社長）

司 会：藤掛 明（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授，臨
床心理士）

6. 2019年2月1日 スピリチュアルケア研究講演会「哀しみのなかからひかり
を――祈り，寄り添い，たましいの救いへ」
第2回「哀しみ傍らにあって――聖書に学ぶとりなしの祈り」（聖学院大
学ヴェリタス館1階教授会室）【参加者50名】

講演：左近 豊（美竹教会牧師，青山学院大学国際政治経済学部宗

教主任・教授)

司会：田村 綾子（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

7. 2019年2月13日 「公正な研究活動の推進におけるコンプライアンス教育」
研修会（聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室）【参加者71名】
講演：松場 里弥（ロバストジャパン株式会社）
8. 2019年3月1日 キリスト教カウンセリング研究講演会「愚痴も悩みも歌
にして…」（日本印刷会館）【参加者67名】
講演：久米小百合（ミュージック・ミッションナリー、音楽宣教師）
司会：藤掛 明（聖学院大学総合研究所カウンセリング研究 研
究代表，同心理福祉学部教授）
9. 2019年5月11日 第8回（2019年度第1回）埼玉税法研究会「軽減税率制
度と適格請求書等保存方式の導入」（聖学院大学ヴェリタス館1階教授会
室）【参加者70名】
基調講演：吉川 保弘（埼玉税法研究会研究代表，聖学院大学大学院
政治政策学研究科客員教授）
司 会：木村 裕二（聖学院大学大学院政治政策学研究科特任講
師，埼玉税法研究会事務局次長）
10. 2019年9月9日 牧会サマーセミナー「高齢社会における牧会を考える」
（聖学院大学2号館3階2303教室）【参加者8名】
発題：堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師，聖学院大学総合研
究所特別研究員，臨床パストラル・スーパーバイ
ザー）
司会・コーディネーター：藤掛 明（聖学院大学総合研究所カウ
ンセリング研究研究代表，同大学心理福祉学部心理
福祉学科教授，同大学大学院教授）
11. 2019年10月5日 福祉のこころ研究講演会「人間福祉への思い——ひと
りひとりの個性的な人生を創るために」（聖学院大学4号館4階4401教室）

【参加者52名】

シンポジスト：中村 磐男（聖学院大学名誉教授）

「公衆衛生における人間福祉」

牛津 信忠（聖学院大学名誉教授，同大学総合研究所心理福祉総合研究センター長）

「今，人間福祉を考える」

柏木 昭（聖学院大学名誉教授，公益社団法人日本精神保健福祉士協会名誉教授）

「ソーシャルワークにおける「かかわり」とは何か」

コーディネーター：助川 征雄（聖学院大学名誉教授）

司会：中谷 茂一（聖学院大学人間福祉学科長，同大学心理福祉学部教授）

12. 2019年11月8日 日韓神学シンポジウム2019（第9回日韓神学者学術会議）「人間：アジアの人間観と神学的人間論——21世紀における人間性回復のための統全的収斂」（長老会神学大学校（韓国・ソウル））

セッションⅠ

講演：清水 正之（聖学院大学学長・同大学総合研究所所長・学校法人聖学院理事長）

レスポンス：安 允基（アン・ユンギ）（長老会神学大学校教授）

セッションⅡ

講演：朴 成奎（パク・ソンギョ）（長老会神学大学校教授）

レスポンス：高橋 義文（聖学院大学総合研究所名誉教授）

13. 2019年12月7日 絵本ワークショップ「絵本をからだで感じてみる」（聖学院大学4号館4階4402教室）【参加者35名】

講演・ファシリテーター：春木 豊（聖学院大学特任講師）

司会・コーディネーター：寺崎 恵子（聖学院大学人文学部児童学科准教授）

14. 2020年2月12日 研究公正委員会主催・競争的資金獲得・コンプライアンス促進のための研究共催「公正な研究活動の推進におけるコンプライア

ンス教育研修会」(聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室)【参加者86名】
講演：中安 豪 (ロバストジャパン株式会社代表取締役)

15. 2020年2月15日 ソーシャルワーク研究講演会「ソーシャルワークにおける「対等」とはなにか? — “かかわり” から “ピア” へ」(聖学院大学4号館4階4401教室)【参加者40名】

対談：柏木 昭 (聖学院名誉教授, 公益社団法人日本精神福祉士協会名誉会長)

相川 章子 (聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授, 聖学院大学スーパービジョンセンター長, ソーシャルワーク研究会代表)

16. 2020年2月20日 キリスト教カウンセリング研究講演会「二人の心理臨床家が語る闘病とメンタルヘルス」(聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室)【参加者38名】

講演①：瀧口 俊子 (臨床心理士, 放送大学名誉教授)

講演②：藤掛 明 (臨床心理士, 聖学院大学教, 同大学大学院教授)

司会：堀 肇 (鶴瀬恵みキリスト教会牧師, 聖学院大学総合研究所特別研究員, 臨床パストラル・スーパーバイザー)

17. 2020年9月14日 牧会サマーセミナー「新型コロナウイルス感染禍の中の牧会」(オンライン開催)【参加者18名】

講演：堀 肇 (鶴瀬恵みキリスト教会牧師, 聖学院大学総合研究所特別研究員, 臨床パストラル・スーパーバイザー)

講演・コーディネーター：花野井百合子 (聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター心理相談スタッフ, 臨床心理士, 公認心理師)

司会・コーディネーター：藤掛 明 (聖学院大学総合研究所カウンセリング研究代表, 聖学院大学心理福祉学部

心理福祉学科教授，同大学大学院教授)

18. 2020年11月28日 子どものこころと絵本研究会 絵本ワークショップ
「絵本とからだの関係を考える」(オンライン開催)【参加者14名】
講師：春木 豊(元聖学院大学特任講師，臨床発達心理士)
コーディネーター：寺崎 恵子(聖学院大学人文学部児童学科准教授)
19. 2021年2月10日 研究公正委員会主催・競争的資金・コンプライアンス
促進のための研究会共催 「公正な研究活動の推進におけるコンプライア
ンス教育」研修会(オンライン開催)【参加者97名】
講演：中安 豪(ロバストジャパン株式会社代表取締役)
20. 2021年2月20日 人間福祉研究 福祉のこころ研究会・ソーシャルワ
ーク研究会共催 福祉のこころ・ソーシャルワーク研究講演会「相談支援の
さらなる充実を求めて——ロジャース心理学とストレングスモデル及び前
橋モデルの意義」(オンライン開催)【参加者34名】
講演①：助川 征雄(聖学院大学名誉教授)
講演②：山本 泉(NPO法人カウンセリング&コミュニケーション・ミュー(CCM)代表，日本カウンセリ
ング学会認定スーパーバイザー，人間福祉学博士
(聖学院大学))
21. 2021年2月22日 2020年度第1回組織神学・伝道研究会及びニーバー研
究会「キリストの弟子として生きる——ディサイプルス派の歴史と日本宣
教：バートン・ストーンとキャンベル父子の運動について」(オンライン
開催)【参加者12名】
発題：赤田 直樹(日本基督教団聖学院教会牧師，聖学院みどり幼稚
園チャプレン・園長補佐，学校法人キリスト教若
葉学園理事)
22. 2021年3月1日 アクティブ・ラーニング研究会「オンライン授業におけ
る空間共有という課題」(オンライン開催)【参加者17名】

報告1：井上 兼生（聖学院大学人文学部特任教授）

報告2：齊藤 伸（聖学院大学基礎総合部特任助手）

報告3：岡村 佳代（聖学院大学基礎総合部教授）

23. 2021年3月2日 聖学院大学総合研究所主催・同牧会心理研究後援 聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター座談会「聖学院大学におけるキリスト教カウンセリングの歩み——赤坂での活動を中心に」（オンライン開催）【参加者10名】

出演：堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師，聖学院大学総合研究所特別研究員，臨床パストラル・スーパーバイザー）

村上 純子（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

花野井百合子（聖学院大学総合研究所特別研究員，同研究所カウンセリング研究センター心理相談スタッフ，臨床心理士，公認心理師）

司会・コーディネーター：藤掛 明（聖学院大学総合研究所カウンセリング研究 研究代表，聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授，同大学大学院教授）

24. 2021年3月5日 聖学院大学心理福祉学部主催・聖学院大学総合研究所心理福祉研究共催 聖学院大学心理福祉学部附属心理相談室開室記念講演会「アサーションというコミュニケーション——新型コロナ禍の中で心を通わすために」（オンライン開催）【参加者357名】

講演：平木 典子（IPI統合的心理研究所顧問，日本アサーション協会代表）

(2) 共同研究

総合研究所では「共同研究規定」に基づき、研究代表者から申請された「共同研究計画」に沿って、学内外教員、研究者がそれぞれの研究分野での研究成果を持ち寄って「共同研究」を進めている。2017年度より研究分野が整理・統合され、現在は「文化総合研究センター」、「人間福祉総合研究センター」、「教育総合研究センター」の3研究分野となり、13の研究会を擁している。各研究グループは、大学、聖学院新館（駒込）、外部などを会場とし、またオンラインで研究会、研究講演会、シンポジウムなどを開催している。

2018年度から2020年までは下記の14の研究グループが活動した。なお、研究者の肩書は発表当時のものである。

■文化総合研究センター■

1 韓国長老会神学大学校との学術交流による研究〈日韓神学者学術会議〉

（研究代表：清水正之 聖学院大学学長，同大学人文学部日本文化学科特任教授）

2008年9月19日に韓国長老会神学大学校との間に交流協定が締結され、2009年3月に韓国長老会神学大学校と共催の第1回日韓神学者学術会議がソウルにて開催された。その後、共催校で交互に開催されている。

〈研究組織〉（2020年度時）

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
清水 正之	聖学院大学人文学部日本文化学科特任教授	[研究代表]
村瀬天出夫	聖学院大学人文学部欧米文化学科准教授	[研究代表補佐]

2018年度

(1) 2018年11月16日

日韓神学シンポジウム2018（第8回日韓神学者学術会議）

「キリスト教の人間論」

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者37名】

セッションⅠ

講演：片柳 榮一（聖学院大学大学院客員教授）

「人間的自由の現代的問題」

コメント：白 忠鉉（ペク・チュンヒョン）（長老会神学大学校助教授）

セッションⅡ

講演：金 道訓（キム・ドフン）（長老会神学大学校教授）

『『ポジティブ心理学』および『ポジティブなキリスト教人間論』の原理と方法』

コメント：村瀬天出夫（聖学院大学人文学部欧米文化学科特任講師）

2019年度

(1) 2019年11月8日

日韓神学シンポジウム2019（第9回日韓神学者学術会議）

「人間：アジアの人間観と神学的人間論——21世紀における人間性回復のための統全的収斂」

会場：長老会神学大学校（韓国・ソウル）

セッションⅠ

講演1：清水 正之（聖学院大学人文学部日本文化学科特任教授，同大学総合研究所所長）

「北森嘉蔵『神の痛みの神学』における人間学的側面をめぐって」

レスポンス1：安 允基（アン・ユンギ）（長老会神学大学校教授）

セッションⅡ

講演2：朴 成奎（パク・ソンギョ）（長老会神学大学校教授）

「神学的人間論とアジアの人間論の統全的収斂モデルとしての一元論的人間論」

レスポンス2：高橋 義文（聖学院大学総合研究所名誉教授）

2020年度

新型コロナウイルス感染症の影響により延期。

研究成果公開

第8回の主題講演，コメントなどは『総合研究所紀要』に掲載された。

1) 第8回日韓神学者学術会議——日韓神学シンポジウム2018

・清水 正之『『第八回日韓神学者学術会議』について』

『総合研究所紀要』65号，pp.17-19，2018（洛雲海訳ハンゲル，pp.59-60）

・片柳 榮一「人間的自由の現代的問題」

『総合研究所紀要』65号，pp.21-38，2018（白正煥訳ハンゲル，pp.61-74）

・白 忠鉉（ペク・チュンヒョン）／ナグネ（洛雲海）訳「片柳榮一教授の論文「人間的自由の現代的問題」に対するコメント」（ハンゲル，pp.75-79）

『総合研究所紀要』65号，pp.39-44，2018

・片柳 榮一「白忠鉉助教のコメントへの応答」

『総合研究所紀要』65号，pp.45-48，2018（洛雲海訳ハンゲル，pp.80-82）

・金 道訓（キム・ドフン）／ナグネ（洛雲海）訳「「ポジティブ心理学」および「ポジティブなキリスト教人間論」の原理と方法」（Positive Psychology and The Methods of Christian Positive Anthropology）

『総合研究所紀要』65号，pp.49-75，2018

・村瀬天出夫「金道訓教授への応答」

『総合研究所紀要』65号，pp.76-88，2018（白正煥訳ハンゲル，pp.83-92）

2) 日韓神学シンポジウム2018（第8回日韓神学者学術会議）報告

「キリスト教的人間論」

『総合研究所Newsletter』Vol.28，No.2，pp.79-80，2018（2019.3）

3) 日韓神学シンポジウム2019（第9回日韓神学者学術会議）報告

「人間：アジアの人間観と神学的人間論——21世紀における人間性回復のための統全的収斂」

『総合研究所Newsletter』Vol.29，No.2，pp.46-47，2019（2020.3）

2 組織神学・伝道研究（神学学術研究）

（研究代表：菊地 順 聖学院大学政治経済学部教授・同大学総合研究所
所長）

明治以後の日本の知性は「神学なき近代化」によって特徴づけられている。その理由は日本の社会的状況や知的状況にも求められるであろうが、むしろ神学内部の問題であった。新しい世紀の始まり、新しいミレニアムの始まりにいま一度神学のアクチュアリティを問い直し、神学の復権に奉仕するために組織神学研究が始まった。

2016年度の改組以降、「韓国長老会神学大学校との学術交流による研究〈日韓神学会議〉」は独立した研究グループとなっている。また、2019年度に立ち上がった伝道研究と合流し、組織神学・伝道研究として活動する。

〈研究組織〉（2020年度時）

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
菊地 順	聖学院大学政治経済学部教授，同研究所所長	[研究代表]
東野 尚志	聖学院大学総合研究所客員教授，滝野川教会牧師	[研究代表 補佐]

2018年度

(1) 2018年7月23日

第1回ラインホールド・ニーバー研究・組織神学研究会 合同
「P. ティリッヒとR. ニーバー——M. L. キングとの関係をめぐって」
発題：菊地 順（聖学院大学経済学部チャプレン，教授）
会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者25名】

2019年度

(1) 2019年7月29日

第1回ラインホールド・ニーバー研究・組織神学研究会 合同
「R. ニーバーの人間論再考——自由と罪との関係をめぐって」
発題：五十嵐成見（聖学院大学心理福祉学部兼人間福祉学部チャプレン）

ン、助教)

会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者12名】

(2) 2020年2月28日

第2回(伝道 第1回) ラインホールド・ニーバー研究・組織神学及び伝道研究会

「ラインホールド・ニーバーの近代思想批判の特質——チャールズ・テイラーとの比較において」

発題：千葉 眞(国際基督教大学特任教授)

会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者12名】

2020年度

(1) 2021年2月22日

第1回組織神学・伝道研究及びラインホールド・ニーバー研究会

「キリストの弟子として生きる——ディサイプルス派の歴史と日本宣教：
バートン・ストーンとキャンベル父子の運動について」

発題：赤田 直樹(日本基督教団聖学院教会牧師)

会場：オンライン (Zoom)【参加者12名】

研究成果公開

- 1) 菊地 順「P. ティリッヒとR. ニーバー——M. L. キングとの関係をめぐって」
『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.1, pp.4-14, 2018 (2018.10)
- 2) 2018年度第1回ラインホールド・ニーバー研究及び組織神学研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.1, p.64, 2018 (2018.10)
- 3) 五十嵐成見「ラインホールド・ニーバーの人間論再考——その歴史形成面の考察」
『総合研究所紀要』No.66, pp.64-85, 2019
- 4) 2019年度第1回ラインホールド・ニーバー研究会及び組織神学研究会報告
五十嵐成見「ラインホールド・ニーバーの人間論再考」
『総合研究所Newsletter』Vol.29, No.1, p.38, 2019 (2019.10)

3 日本文化研究（グローバル化と日本文化研究）

（研究代表：村松 晋 聖学院大学人文学部日本文化学科教授，人文学部長兼文化総合学研究科長）

旧「グローバル化の文脈における総合的日本研究」は、2015年度より日本文化研究会に名称変更し、研究活動を開始した。2016年度にはセンター制の整備，名称の変更を受けて，日本文化学研究「グローバル化と日本文化研究」として活動している。

〈研究組織〉（2020年度時）

氏名	所属・職名	〔研究分担・構成員〕
村松 晋	聖学院大学人文学部日本文化学科教授	〔研究代表〕
木下 綾子	聖学院大学人文学部日本文化学科准教授	〔研究代表補佐〕

2018年度

(1) 2019年3月15日

第1回グローバル化と日本文化研究会
「内村鑑三 戦争論の帰趨」
発題：関根 清三（聖学院大学大学院客員教授）
会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者20名】

2019年度

(1) 2020年2月28日

第1回グローバル化と日本文化研究会
「戦国期の関東公方」
発題：阿部 能久（聖学院大学人文学部日本文化学科准教授）
会場：聖学院大学4号館4階4403教室【参加者14名】

研究成果公開

- 1) 2018年度 第1回グローバル化と日本文化研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.29, No.2, pp.35-36, 2019 (2020.3)

- 2) 2019年度グローバル化と日本文化研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.30, No.1・2, p.20, 2020 (2021.3)

4 ラインホールド・ニーバー研究

(研究代表：柳田洋夫 聖学院大学人文学部児童学科教授，人文学部
チャプレン)

ラインホールド・ニーバーを，神学的，政治学的，社会的に包括的に研究し，その特質と普遍的・現代的意義，とりわけ現代および将来の日本に対する意義を明らかにする。本研究室はラインホールド・ニーバー研究センター内において，長年，ラインホールド・ニーバー研究室として研究がなされてきた。2011年から2013年度までは，日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）による研究，「ラインホールド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」（課題番号：23320025）が行われた。2014年度からは名称を人文科学研究と改め，ラインホールド・ニーバー研究を主軸にし継続した研究が行われ，2015年より，旧名称「ラインホールド・ニーバー研究」に再改変した。

〈研究組織〉（2020年度時）

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
柳田 洋夫	聖学院大学人文学部児童学科教授	[研究代表]
五十嵐成見	聖学院大学心理福祉学部准教授，心理福祉学部兼人間福祉学部チャプレン	[代表補佐]

2018年度（研究会）

(1) 2018年7月23日

第1回ラインホールド・ニーバー研究会・組織神学研究会 合同
「P. ティリッヒとR. ニーバー——M. L. キングとの関係をめぐって」
発題：菊地 順（聖学院大学経済学部教授，チャプレン）
会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者25名】

(2) 2018年12月17日

第2回ラインホールド・ニーバー研究会

「ニーバーと人種問題」

発題：高橋 義文（聖学院大学大学院客員教授，総合研究所副所長）

会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者14名】

2019年度

(1) 2019年7月29日

第1回ラインホールド・ニーバー研究会・組織神学研究会 合同

「R. ニーバーの人間論再考——自由と罪との関係をめぐって」

発題：五十嵐成見（聖学院大学心理福祉学部助教）

会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者12名】

2020年度

(1) 2021年2月22日

第1回ラインホールド・ニーバー研究会・組織神学・伝道研究会 合同

「キリストの弟子として生きる——ディサイプルス派の歴史と日本宣教：
バートン・ストーンとキャンベル父子の運動について」

発題：赤田 直樹（日本基督教団聖学院教会牧師）

会場：オンライン（Zoom）【参加者12名】

研究成果公開

- 1) 菊地 順「P. ティリッヒとR. ニーバー——M. L. キングとの関係をめぐって」
『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.1, pp.4–14, 2018 (2018.10)
- 2) 2018年度第1回ラインホールド・ニーバー研究及び組織神学研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.1, p.64, 2018 (2018.10)
- 3) 高橋 義文「ニーバーと人種問題——ジェイムズ・H・コーンのニーバー評価に触れて」
『総合研究所紀要』No.66, pp.17–63, 2019
- 4) 2018年度第2回ラインホールド・ニーバー研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.2, p.85, 2018 (2018.10)
- 5) 五十嵐成見「ラインホールド・ニーバーの人間論——その歴史形成面の考察」

『総合研究所紀要』No.66, pp.64-85, 2019

- 6) 2019年度第1回ラインホールド・ニーバー研究及び組織神学研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.29, No.1, p.38, 2019 (2019.10)

5 埼玉税法研究（税法研究）

（会長：吉川保弘 聖学院大学大学院政治政策学研究科客員教授）

本研究は、2015年より、「上尾を基盤とした税法研究の促進を目的としたシンポジウム及び研究会の開催」、「大学院政治政策学研究科修了者のネットワーク構築」、「埼玉県等の近隣税理士事務所への本学アピール」という趣旨で始まった。

〈研究組織〉（2020年度時）

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
吉川 保弘	聖学院大学大学院政治政策学研究科客員教授	[研究代表]
平石雄一郎	聖学院大学名誉教授	[名誉会長]
岸田 貞夫	元聖学院大学大学院教授	[名誉副会長]
平 修久	聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授	副学長 [代表補佐]
柴田 武男	聖学院大学大学院政治政策学研究科講師	[事務局長]
木村 裕二	聖学院大学大学院政治政策学研究科特任教授	[事務局次長]

2018年度

(1) 2018年5月12日

第6回（2018年度第1回）埼玉税法研究会

「IGS（イントラグループサービス）と課税問題」

基調講演：吉川 保弘（聖学院大学大学院政治政策学研究科特任教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者70名】

(2) 2018年11月24日

第7回（2018年度第2回）埼玉税法研究会

「修士論文構想報告会」

会場：聖学院大学4号館4401教室【参加者34名】

2019年度

(1) 2019年5月11日

第8回（2019年度第1回）埼玉税法研究会「軽減税率制度と適格請求書等保存方式の導入」

基調講演：吉川 保弘（聖学院大学大学院政治政策学研究科客員教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者70名】

(2) 2019年11月16日

第9回（2019年度第2回）埼玉税法研究会

「修士論文構想報告会」

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者28名】

2020年度

(1) 2020年5月9日

第10回（2020年度第1回）埼玉税法研究会「『海外に逃げる税』及び『各種租税回避への取り組み』」（2020年度税制改正）

基調講演：野田扇三郎（聖学院大学大学院政治政策学研究科客員教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止】

(2) 2020年11月7日

第11回（2020年度第2回）埼玉税法研究会

「修士論文構想報告会」

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者28名】

研究成果公開

- 1) 第6回（2018年度第1回）埼玉税法研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.1, p.62, 2018（2018.10）
- 2) 第7回（2018年度第2回）埼玉税法研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.2, p.82, 2018（2019.3）
- 3) 第8回（2019年度第1回）埼玉税法研究会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.29, No.1, p.36, 2019（2019.10）

- 4) 第9回 (2019年度第2回) 埼玉税法研究会報告
『総合研究所Newsletter』 Vol.29, No.2, p.48, 2019 (2020.3)
- 5) 第11回 (2020年度第2回) 埼玉税法研究会報告
『総合研究所Newsletter』 Vol.30, No.1・2, p.23, 2020 (2021.3)

■人間福祉総合研究センター■

6 心理福祉学研究 (心理福祉学研究センター)

(研究代表：田村綾子 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授，同学部長)

新型コロナウイルス感染症の拡大状況次第ではあるが，可能になれば，概ね月1回の頻度で研究会を開催する。心理学と福祉学を専攻する構成員が交互に話題提供者を務めることとする。また，学外者を招いての研究会を年間2回程度開催する。

〈研究組織〉(2020年度時)

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
田村 綾子	聖学院大学心理福祉学部教授	[研究代表]
相川 章子	聖学院大学心理福祉学部教授	[構成員]
五十嵐成美	聖学院大学心理福祉学部准教授	[構成員]
猪瀬 敬二	聖学院大学心理福祉学部准教授	[構成員]
大橋 良枝	聖学院大学心理福祉学部教授	[構成員]
小沼 聖司	聖学院大学心理福祉学部助教	[構成員]
金谷 京子	聖学院大学心理福祉学部特任教授	[構成員]
古谷野 亘	聖学院大学心理福祉学部特任教授	[構成員]
中谷 茂一	聖学院大学心理福祉学部教授	[構成員]
西村 洋一	聖学院大学心理福祉学部教授	[構成員]
長谷川恵美子	聖学院大学心理福祉学部教授	[構成員]
長谷部雅美	聖学院大学心理福祉学部准教授	[構成員]
藤掛 明	聖学院大学心理福祉学部教授	[構成員]

堀 恭子 聖学院大学心理福祉学部特任教授 [構成員]
村上 純子 聖学院大学心理福祉学部教授 [構成員]
元田 宏樹 聖学院大学心理福祉学部准教授 [構成員]
森岡由紀子 聖学院大学心理福祉学部特任教授 [構成員]

2020年度（研究会・講演会）

(1) 2021年3月5日

聖学院大学心理福祉学部附属心理相談室開設記念講演会

「アサーションというコミュニケーション——新型コロナ禍の中で心を通わすために」

講演者：平木 典子（IPI統合的心理療法研究所顧問，日本アサーション協会代表）

会場：オンライン（Zoom）【参加者12名】

聖学院大学心理福祉学部主催／心理福祉研究共催

・新型コロナウイルス感染症の影響により，研究会は休会。

研究成果公開

次年度『総合研究所 Newsletter』誌上に報告を掲載予定

7 人間福祉学研究

（福祉のこころ研究代表：中谷茂一 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授，同学科長）

（ソーシャルワーク研究代表：相川章子 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

2019年度より，従来の「福祉のこころ研究」に加え，新たに「ソーシャルワーク研究」をもう一つの柱として加えた。この二つの柱をもって研究を深めていくことを目指すものである。各研究の概要は次の通り。

・「福祉のこころ研究」——人間福祉学を考える

本学の人間福祉学部人間福祉学科は，学科創立理念の中に，「福祉の心

と専門知識に裏打ちされた精神ある専門人」を謳っている。「福祉の心」は「人間福祉総論」や「キリスト教人間学」などの科目を通して伝えられているが、「福祉の心」とは何かについて明確な文章化は、未だなされていない。本学人間福祉学部および大学院人間福祉学研究科で掲げる「福祉の心」とは何かについて研究を行うとともに、創立時の理念の継承とその発展を研究の目的としている。

・「ソーシャルワーク研究」

福祉学は理論と実践が一体となった学問である。本学では人間福祉学として、その理論的枠組みを「福祉のこころ研究会」にて探求するとともに、実践の探求を「ソーシャルワーク研究会」にて深めていく。ソーシャルワークは時代とともに変容及び多様化するニーズに対応してくものであり、近年、複雑化・多様化した状況「ここで、今」求められるソーシャルワーク実践を考える必要性に迫られている。一方で時代を超えて普遍的なソーシャルワーク原理も存在する。これらについて本学教員のみならず、学外のソーシャルワーク実践家、また実践を重ねた卒業生らを加えて探求することを目的とする。

〈研究組織〉(2020年度時)

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
中谷 茂一	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授	[福祉のこころ研究代表]
相川 章子	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授，同大学スーパービジョンセンター長	[ソーシャルワーク研究代表]
柏木 昭	聖学院大学総合研究所名誉教授，聖学院大学名誉教授，公益社団法人日本精神福祉士協会名誉会長	[顧問]
中村 磐男	聖学院大学名誉教授	[顧問]
牛津 信忠	聖学院大学名誉教授	[顧問]
助川 征雄	聖学院大学名誉教授，全国精神保健福祉相談会相談役	[顧問]
田村 綾子	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授	[研究員]
小沼 聖治	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科助教	[研究員]

2018年度

福祉のこころ研究 活動休止

2019年度

(1) 2019年10月5日

2019年度福祉のこころ研究講演会

「人間福祉への想い——ひとりひとりの個性的な人生を創るために」

柏木 昭（聖学院大学名誉教授）

中村 磐男（聖学院大学名誉教授）

牛津 信忠（聖学院大学名誉教授）

コーディネーター：助川 征雄（聖学院大学名誉教授）

司会：中谷 茂一（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

会場：聖学院大学4号館4階4401教室【参加者52名】

(2) 2020年2月15日

ソーシャルワーク研究講演会

「ソーシャルワークにおける「対等」とはなにか？——“かかわり”から
“ピア”へ」

柏木 昭（聖学院大学名誉教授）

相川 章子（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

会場：聖学院大学4号館4階4401教室【参加者40名】

2020年度

(1) 2021年2月20日

2020年度福祉のこころ・ソーシャルワーク研究講演会

「相談支援のさらなる充実を求めて——ロジャース心理学とストレングスモデル及び前橋モデルの意義」

講演①：「前橋ODSの不登校支援にみる『非専門家の専門性』の可能性」

助川 征雄（聖学院大学名誉教授）

講演②：「前橋ODSの10年の取り組みから見えてきたもの」

山本 泉（聖学院大学大学院博士課程修了，人間福祉学博士（学術），
日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー）

司会兼コーディネーター：相川 章子（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

会場：オンライン開催（Zoom）【参加者34名】

研究成果公開

- 1) 2019年度福祉のこころ研究講演会報告
『総合研究所 Newsletter』 Vol.29, No.2, pp.42-44, 2019 (2020.3)
- 2) 2019年度ソーシャルワーク研究講演会報告
『総合研究所 Newsletter』 Vol.30, No.1・2, p.15, 2020 (2021.3)

8 スピリチュアルケア研究（心理福祉学研究センター）

スピリチュアリティ（霊性）の構造分析と病む人へのケア学研究
（研究代表：田村綾子 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

近年我が国でもスピリチュアルケアの必要性に気づき始め研究が開始された。スピリチュアルケアの実践に向けて、スピリチュアルケアの「定義」が今大きな課題になっている。研究の主な課題はスピリチュアリティ（霊性）を歴史的・文化的・臨床的に考察しながら、臨床の現場で使えるスピリチュアルケアを創出することである。スピリチュアリティの構造分析をすることで、臨床に使えるスピリチュアルケアの方法が明らかになった。病む人へのスピリチュアルケアの学際的研究を行った。当該研究には理論家と実践家の2種類の研究者が参加。スピリチュアリティ（霊性）について歴史的・文化的研究者と、実践家による両研究家対話を繰り返しながら、スピリチュアリティの本質を構造的に明確にした。スピリチュアリティ（霊性）が構造的に分析されることで今後の終末期医療におけるスピリチュアルケアの具体化に確実に貢献することができた。なお、本研究は2019年度をもって修了となった。

〈研究組織〉（2019年度時）

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
田村 綾子	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授	[研究代表]
窪寺 俊之	聖学院大学大学院客員教授	

柴田 実 聖路加国際病院チャプレン，聖学院大学こども心理学科非常
勤講師

2018年度（研究会・講演会）

2018年度スピリチュアルケア研究講演会

「哀しみのなかからひかりを——祈り，寄り添い，たましいの救いへ」

(1) 2018年7月20日 第1回

「病院チャプレンの癒しの働き」

講演：柴田 実（聖路加国際病院チャプレン）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者53名】

(2) 2019年2月1日 第2回

「哀しみ傍らにあって——聖書に学ぶとりなしの祈り」

講演：左近 豊（美竹協会牧師・青山学院大学国際政治経済学部宗教
主任・教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者50名】

2019年度（研究会・講演会）

(1) 2020年3月10日 スピリチュアルケア研究講演会

「金子みすゞの死とスピリチュアリティ」

講演：窪寺 俊之（聖学院大学大学院客員教授・日本臨床死生学会常任
理事・スピリチュアル学会常任理事）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室

【新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期】

研究成果公開

1) 2018年度スピリチュアルケア研究講演会報告

「哀しみのなかからひかりを——祈り，寄り添い，たましいの救いへ」

『総合研究所Newsletter』Vol.29, No.2, p.33, 2019 (2020.3)

9 カウンセリング研究（カウンセリング研究センター）

（研究代表：藤掛 明 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

カウンセリング研究では、「カウンセリングシンポジウム」「キリスト教カウンセリング研究講演会」を開催し、心の癒しや成長のために多様な視点から研究している。また補助活動事業である「心理相談室グリーンケア・ルーム」などでのカウンセリングを通じて、心理学的な実践・研究を行っている。

なお、2020年度からは、カウンセリング研究は、牧会心理研究に統合され、「カウンセリングシンポジウム」は閉会とし、「キリスト教カウンセリング研究講演会」（2020年度については休会）、関連補助活動である「心理相談室グリーンケア・ルーム」のプログラム及び「牧会電話相談」は牧会心理研究に移行した。

〈研究組織〉（2019年度時）

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
藤掛 明	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授	臨床心理士 [研究代表]
村上 純子	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授	臨床心理士，公認心理師 [研究員]
堀 肇	同大学総合研究所特別研究員，同研究所カウンセリング研究センター牧会電話相談カウンセラー	臨床パストラル・スーパーバイザー，鶴瀬恵みキリスト教会牧師 [研究技術者]
花野井百合子	同大学総合研究所特別研究員，同研究所カウンセリング研究センター心理相談グリーンケアルームカウンセラー	臨床心理士，公認心理師 [研究技術者]

2018年度（シンポジウム・講演会）

(1) 2018年11月30日

カウンセリングシンポジウム「壁を越える本」

堀 肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師）

松谷 信司（株式会社キリスト新聞社代表取締役社長）

藤掛 明（聖学院大学心理福祉学部教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者35名】

(2) 2019年3月1日

キリスト教カウンセリング研究講演会

「愚痴も悩みも歌にして…」

久米小百合（ミュージック・ミッションナリー、音楽宣教師）

藤掛 明（聖学院大学心理福祉学部教授）

会場：日本印刷会館（築地）【参加者67名】

2019年度（シンポジウム・講演会）

(1) 2020年2月20日

キリスト教カウンセリング研究講演会

「二人の心理臨床家が語る闘病とメンタルヘルス」

瀧口 俊子（臨床心理士・放送大学名誉教授）

藤掛 明（臨床心理士・聖学院大学教授・同大学大学院教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者38名】

研究成果公開

- 1) 2018年度カウンセリングシンポジウム報告
『総合研究所 Newsletter』 Vol.28, No.2, p.83, 2018 (2019.3)
- 2) 2018年度キリスト教カウンセリング研究講演会報告
『総合研究所 Newsletter』 Vol.29, No.1, p.35, 2019 (2019.10)

10 牧会心理研究

日本における宗教指導者のメンタル・ヘルスに関する臨床心理学的研究
(研究代表：藤掛 明 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授・臨床心理士)

牧会心理研究では、日本のキリスト教会が教会の内外で行う心理的霊的な援助活動（牧会）について、臨床心理学や精神医学の観点から支援するとともに、探索的な研究に取り組んでいる。「牧会サマーセミナー」（年1回）、「牧会

心理研究会」(年6回)を開催し、主に牧師の関わる相談事例の解明や牧師のメンタルヘルスのあり方などについて、検討・研究を続けている。

また、2020年度からは、「カウンセリング研究」プロジェクトの一部を引き継ぎ、広く一般の人たちのメンタルヘルスを扱い、それをキリスト教的視点から検討する機会としたいと願っている。具体的なプログラムとしては、「キリスト教カウンセリング研究講演会」(年1回)を引き続き継続開催していく。また「カウンセリング研究」プロジェクトの補助関連活動事業である「心理相談室グリーンケア・ルーム」なども引き継いで運用する(ただし、補助関連事業は、2021年度からは休室の予定である)。

〈研究組織〉(2020年度時)

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
藤掛 明	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授、臨床心理士	[研究代表]
村上 純子	学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授、臨床心理士、公認心理師	[研究員]
堀 肇	カウンセリング研究センター牧会電話相談カウンセラー、臨床パストラルスーパーバイザー	[研究技術者]
花野井百合子	カウンセリング研究センター心理相談グリーンケア・ルームカウンセラー、臨床心理士、公認心理師	[研究技術者]
根田 祥一	クリスチャン新聞顧問	[研究員]
松谷 信司	キリスト新聞編集長	[研究員]

2018年度(研究会) 発題者・事例主題は非公開

〈牧会心理研究第一研究会〉

第1回 2018年5月17日

会場：聖学院大学内【参加人数6名】

第2回 2018年9月13日

会場：聖学院大学内【参加人数2名】

第3回 2019年2月7日

会場：聖学院大学内【参加人数6名】

〈牧会心理研究第二研究会〉

第1回 2018年5月18日

会場：聖学院大学内【参加人数7名】

第2回 2018年9月21日

会場：聖学院大学内【参加人数8名】

第3回 2018年2月8日

会場：聖学院大学内【参加人数6名】

2019年度（研究会） 発題者・事例主題は非公開

〈牧会心理研究第一研究会〉

第1回 2019年5月24日

会場：聖学院大学内【参加人数7名】

第2回 2019年9月19日

会場：聖学院大学内【参加人数6名】

第3回 2020年2月13日

会場：聖学院大学内【参加人数4名】

〈牧会心理研究第二研究会〉

第1回 2019年5月23日

会場：聖学院大学内【参加人数4名】

第2回 2019年9月6日

会場：聖学院大学内【参加人数8名】

第3回 2020年2月21日

会場：聖学院大学内【参加人数6名】

2020年度（研究会） 発題者・事例主題は非公開

〈牧会心理研究第一研究会〉

第1回 2020年9月17日

会場：オンライン開催【参加人数5名】

〈牧会心理研究第二研究会〉

第1回 2020年9月11日

会場：オンライン開催【参加人数8名】

2010年度より研究会は2つのグループに分かれて継続して行われている。参加者の多様な問題意識に基づき、牧師として直面している多くの体験が分かち合われた。1人の担当者が、困難を覚えている（あるいは、過去において困難を覚えた）事例やトピックスを報告し、全体で分かち合うかたちで続けられた。毎回、語り合う内容は多岐に及び、かつ参加者によりいろいろな感想が交換されるのであるが、思いのほか似た体験の披露があり、不思議な慰めと新たな洞察を得ている。また、研究会の終わりに、臨床心理学の立場から筆者が、提供された事例やトピックスに対して、短いコメントを述べている。毎回、取り上げられる事例やトピックスは多岐に渡るものの、信徒との人間関係、病者との人間関係、同業者との人間関係など、つくづく牧会者が「人間関係」に直面しながら活動する専門家であることが印象づく。また、毎回感心することであるが、牧会相談と心理相談の違いである。たしかに心理相談には、複雑な相談ごとを受け取るための知恵としての諸原則（契約であったり多重関係性の禁止であったり）がある。しかし、牧会者は、そうした原則を越えて相談に応じていくときがままある。そのデメリットを承知の上で、なお使命に生きていこうとする姿が見られ、それが牧会相談の難しさである。

牧会サマーセミナー報告

2018年度

2018年9月10日（月）に下記の内容にて牧会サマーセミナーを開催した。29名の参加者があった。テーマは「今、語り合いたい教会のこと、牧師のこと」。報告は『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.1, pp.65-66, 2018（2018.3）に掲載。

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 9：30～9：50 | 開会（司会者挨拶・参加者自己紹介）藤掛 明 |
| 9：50～10：50 | 講演1 香山リカ |
| 10：50～11：00 | 質疑応答 |
| 11：00～11：10 | 休憩 |
| 11：10～11：50 | 講演2 堀 肇 |

- 11：50～12：00 質疑応答
- 12：00～13：00 昼休み
- 13：00～15：00 分科会 グループディスカッション
- 15：00～16：00 閉会（グループからの報告とまとめ）

2019年度

2019年9月9日（月）に下記の内容にて牧会サマーセミナーを開催した。8名の参加者があった。テーマは「高齢社会における牧会を考える」。報告は『総合研究所 Newsletter』Vol.29, No.2, pp.37-38, 2019（2020.3）に掲載。

- 10：35～11：00 開会（挨拶と自己紹介）藤掛 明
- 11：00～12：00 講演1 堀 肇
- 12：00～12：20 質疑応答
- 12：20～13：10 昼休み
- 13：10～15：00 分科会・グループディスカッション
コーディネーター 堀 肇, 藤掛 明, 花野井百合子
- 15：00～16：00 閉会 グループからの報告とまとめ

2020年度

2020年9月14日（月）に下記の内容でオンラインにて牧会サマーセミナーを開催した。テーマは「新型コロナウイルス感染禍の中での牧会」。18名の参加者があった。報告は『総合研究所 Newsletter』Vol.30, No.1・2, pp.21-22, 2020（2021.3）に掲載。

- 10：30～11：00 挨拶と自己紹介 藤掛 明
- 11：00～12：00 講演1 堀 肇
- 12：00～12：15 講演2 花野井百合子
- 12：15～12：30 質疑応答
- 12：30～13：30 昼休み
- 13：30～15：30 分科会
- 15：30～16：00 分科会の報告とまとめ

2021年3月2日（火）にオンラインにて座談会を開催した。テーマは「聖学院大学におけるキリスト教カウンセリングの歩み——赤坂での活動を中心に」。牧会心理研究会メンバーのうち4名の参加者があった。

出演：堀 肇，村上純子，花野井百合子

司会・コーディネーター：藤掛 明

2018年度の牧会サマーセミナーは、第1回目の開催から10年10回目となる記念すべきセミナーであった。第1回は、「牧会者の癒しと自己開示」というテーマで、加藤常昭先生を講師としてお招きした。その後のテーマの推移を見ると、当初は、牧会者と癒しの問題を扱っていた（②「今日の教会と牧師の役割」、③「傷付いた魂の癒しを求めて」、④「牧会者の危機と癒し」）。ついで牧会相談の具体論（⑤「牧会における家族の問題」、⑥「教会における人間関係」）に移行し、最近では牧会者自身の自己ケアの問題に辿り着いた（⑦「牧会者の自己ケア」、⑧「牧会者の自己ケア～時間と生活」、⑨「牧会者の説教と自己ケア」）。10回目は、これら10年間の余韻を味わいながら、なるべく幅広く、参加者の自由な語り合いを目指し、「今、語り合いたい教会のこと、牧師のこと」をテーマとした。

その後も高齢問題、感染症対応とテーマには事欠かない。

セミナーのプログラムも、午前中に発題講演があり、午後からはそれを受けて、小グループに分かれての語り合いを行っている。この語り合いは午後の2時間を使い、参加者が午前中の講演で引き出された思いや課題、また現に直面している困難を語り合い、分かち合うことを目指した。グループごとにあらかじめテーマがあるわけではなく、参加者はいわば機械的に振り分けられるのだが、グループごとに話題は個性化する。どのグループでも切実な事柄が話され、その場で解決策をコメントするわけではないのだが、語り合いの中で各自が新たな洞察を得ているように思われた。

長時間のセミナーであるが、毎回あっという間に一日が過ぎる。参加者の方々から、「このセミナーには不思議な居心地の良さがある」「リラックスした空気」などのお声を聞いたが、講演にもグループにも、豊かな相互作用性が働いている証だと思わされている。

11 子どものころと絵本研究（旧：こども心理学研究）

（研究代表：寺崎恵子 聖学院大学人文学部児童学科准教授）

本研究会は、2013年度に始動した【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト（2015年度から休会）を継いで、2018年度に再開した。絵本を読む交流における子どもと大人のふれあいに着目して、相互行為に生起する子どものころのありようを考察する。それが、本研究会の課題である。絵本は、大人から子どもに手渡され、共有され、親しまれてきた。読みあいを通じた〈共在感覚〉の継承が考えられる。この異世代間交流の実相に、社会的・文化的・歴史的な「人の生の活動」をとらえて、地域にひらいた研究活動を展開したい。

子どもは、育てる者（添い立つ人；「そだつ」の語源）の援けがあって生きてゆく。大人は、子どもの隣に生きて育てる者に育っていく。ふれあいが生成する関係は、多様な人間が共に生きる社会の基底であり、コミュニケーションの根源である。だが、今や、育つ－育てる関係は、自明性の下に隠蔽され、脆弱化していないだろうか。現代社会における人々の「生きにくさ」の課題がそこに孕まれているのではないか。

絵本は、周縁にあってその本質・両義性が活かされるアートであり、文化財である。図書分類法による配架が難しく、適切な管理方法が未確立のまま「絵本」に一括され、別室や別館に置かれる。読書以前にあり、読み聞かせにも先立ち、絵本の読みあいは、互いの声が響きあってふれあう身読になり、図書館内の黙読の枠からはみ出していく。学校や公共施設の内外に開設された子ども文庫等のボランティアな自由活動を通じて、絵本は長く親しまれ、自他が出あう記憶を重ねてきた。近年、大人の読み聞かせ会や絵本カフェ等の交流活動も盛んである。絵本は、誰もが自由に参加できる居場所を開く。

本研究会は、絵本を読みあう交流が異世代間の交流として地域に開かれることを、大学のあり方の可能性に結びつけて考えている。地域のために子ども図書室を開設したという米国と日本の大学図書館の事例が報告されている(<https://current.ndl.go.jp/node/22595> [2020年2月24日確認])。本研究会は、こうした動向も視野に入れて、国内の事例について研究を始めている。子ども文庫やマイクロ・ライブラリーを学内に併設して、地域交流活性化の支援や次世代型の学びを研究する大学もある。また、附属学校と共に学校図書館運営の

研究を進めて地域に開く大学もある。

本研究活動の一環として「えほんサロン」を開く。絵本とともに多様な世代の人々が自由に参加して交流する〈こころの居場所〉に、共生態の可能性を考えたい。子どもと大人の関係発達に関する支援，学生の居場所づくりに関する支援へのアプローチなど，研究領域を超えた総合的な研究をゆるやかに進めていきたい。

〈研究組織〉(2020年度時)

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
寺崎 恵子	聖学院大学人文学部児童学科准教授	[研究代表]
牛津 信忠	聖学院大学名誉教授	[顧問]
藤掛 明	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科特任教授，臨床心理士	[研究員]
石川由美子	聖学院大学人文学部児童学科常勤講師	[研究員]
仲井 勝巳	聖学院大学人文学部児童学科助教	[研究員]

2018年度

- (1) ワークショップ：活動なし
- (2) 絵本サロン：開室16回

2019年度

- (1) 2019年12月7日
絵本ワークショップ「絵本をからだで感じてみる」
春木 豊（聖学院大学特任講師，臨床発達心理士）
会場：聖学院大学4号館4階4402教室【参加者35名】
- (2) 絵本サロン：開室15回

2020年度

- (1) 2020年11月28日
絵本ワークショップ「絵本とからだの関係を考える」
春木 豊（臨床発達心理士，元聖学院大学特任講師）
会場：オンライン（Zoom）【参加者14名】

(2) 絵本サロン：新型コロナウイルス感染症の影響により開室なし

研究成果公開

- 1) 「生きるかたちにふれあう遊び 大学内の小さな絵本サロンの活動より」
『絵本BOOKEND 2018』通巻15号, 絵本学会, pp.94-95, 2018年6月
- 2) 春木 豊「身体の視点による絵本の読み聞かせについての一考察——
一体感・触れ合う・話しかける身体」
『総合研究所 Newsletter』Vol.29, No.2, pp.20-24, 2019 (2020.3)
- 3) 【子どものこころと絵本研究】絵本ワークショップ報告
『総合研究所 Newsletter』Vol.29, No.2, pp.49-50, 2019 (2020.3)
- 4) 【子どものこころと絵本研究】絵本ワークショップ報告
『総合研究所 Newsletter』Vol. 30, No.1・2, pp. 24-25, 2020 (2021.3)

12 〈児童〉における「総合人間学」の試み研究（児童学研究）

（研究代表：田澤 薫 聖学院大学人文学部児童学科教授，同学科長）

- 1) 人文学及び人間学基礎研究，心理学的側面からのアプローチ
- 2) 文化論的側面からのアプローチ
- 3) 保育学的側面からのアプローチ
- 4) 福祉学的側面からのアプローチ
- 5) キリスト教教育からのアプローチ

人文学及び人間学基礎研究を起点として〈児童〉に対する5つの視点からの研究的アプローチを行い，それらの関係交錯を経て〈児童〉における「総合人間学」について研究を行う。

〈研究組織〉（2020年度時）

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
田澤 薫	聖学院大学人文学部児童学科教授（学科長）	[研究代表]
小池 茂子	聖学院大学人文学部児童学科教授	[研究代表補佐]
松本 祐子	聖学院大学人文学部児童学科教授	[研究代表補佐]
柳田 洋夫	聖学院大学人文学部児童学科教授	[研究員]

相川 徳孝	聖学院大学人文学部児童学科教授 [研究員]
佐藤 千瀬	聖学院大学人文学部児童学科准教授 [研究員]
寺崎 恵子	聖学院大学人文学部児童学科准教授 [研究員]
久保田 翠	聖学院大学人文学部児童学科准教授 [研究員]
仲井 勝巳	聖学院大学人文学部児童学科助教 [研究員]
市村 和子	聖学院大学人文学部児童学科特任講師 [研究員]
川瀬 敏行	聖学院大学人文学部児童学科特任講師 [研究員]
齋藤 範雄	聖学院大学人文学部児童学科特任講師 [研究員]
柴崎 裕	聖学院大学人文学部児童学科特任教授 [研究員]
齋藤 一雄	聖学院大学人文学部児童学科特任教授 [研究員]
鎌原 雅彦	聖学院大学人文学部児童学科特任教授 [研究員]
小川 隆夫	聖学院大学人文学部児童学科特任教授 [研究員]
野村 春文	聖学院大学人文学部児童学科特任講師 [研究員]
佐久間隆介	聖学院大学人文学部児童学科特任講師 [研究員]

2018年度（研究会）

(1) 2018年9月19日

第1回児童学研究会

「家庭の読み書き環境と子どもの読み書き発達——カナダ，中国，日本の縦断研究から」

井上 知洋（聖学院大学人文学部児童学科助教）

会場：聖学院大学4号館4403教室（第二会議室）【参加者18名】

(2) 2019年2月20日

第2回児童学研究会

「大学の開放授業講座（リカレント教育事業）におけるリカレント受講生と正規学生の間に生じた教育的作用について——ジェネレーション・サイクルの視点から」

小池 茂子（聖学院大学人文学部児童学科教授）

会場：聖学院大学1号館2階1201号室【参加者18名】

2019年度（研究会）

(1) 2019年9月25日

第1回児童学研究会

「児童学科における短期海外研修プログラムの教育的効果——言語教育からの一考察」

小川 隆夫（聖学院大学人文学部児童学科特任教授）

会場：聖学院大学4号館4403教室（第二会議室）【参加者21名】

(2) 2020年1月29日

第2回児童学研究会

「AI時代と向き合い未来を拓く子どもの教育者として」（最終講義）

丸山 綱男（聖学院大学人文学部児童学科特任教授）

会場：聖学院大学2号館2階2208教室【参加者（教職員）17名】

2020年度（研究会）

新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

研究成果公開

- 1) 2018年度第1回〈児童〉における「総合人間学」の試み研究会報告『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.2, pp.73–74, 2018 (2019.3)
- 2) 2018年度第2回〈児童〉における「総合人間学」の試み研究会報告『総合研究所Newsletter』Vol.29, No.1, pp.33–34, 2019 (2019.10)
- 3) 2019年度第1回〈児童〉における「総合人間学」の試み研究会報告『総合研究所Newsletter』Vol.29, No.2, pp.39–41, 2019 (2020.3)
- 4) 2019年度第2回〈児童〉における「総合人間学」の試み研究会報告『総合研究所Newsletter』Vol.30, No.1・2, pp.12–13, 2020 (2021.3)

13 競争的資金・コンプライアンス促進のための研究

（研究代表：平 修久 聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授，副学長）

近年の文部科学省，及び日本学術振興会の，各ルール，ガイドライン，他関係法令に定めるもののほか，本学規程に定める新規定を遵守し，競争的資金等の公的研究費（以後「競争的資金」）獲得に向けた研修（研究）会を2015年度より開設した。

本研究会では、「科研費書類の作成方法がよく分からない」、「科研費を申し込んでも審査になかなか通らない」、「昨年度のコンプライアンス教育を受けていない」等々、若手研究者に限らず、競争的資金を獲得したいと考えている本学教員（研究者）を対象とした研修（研究）会である。

〈研究組織〉（2020年度時）

氏名	所属・職名	[研究分担・構成員]
平 修久	聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授	[研究代表]

2018年度

(1) 2018年7月11日

2018年度 競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会

①趣旨説明 ②科研費受給の体験 ③研究倫理について

④科研費改革について ⑤質疑応答

木下 綾子（聖学院大学人文学部日本文化学科准教授）

大橋 良枝（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者29名】

(2) 2019年2月13日

研究公正委員会主催「公正な研究活動の推進におけるコンプライアンス教育」研修会

①研修 ②質疑応答 ③アンケート・誓約書記入、提出等

松場 里弥（ロバストジャパン株式会社）

会場：聖学院大学ディサイプル館2階会議室【参加者71名】

同研修会は、終了後学内限定の動画配信を実施。

2019年度

(1) 2019年7月10日

2019年度競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会

①趣旨説明 ②研究費受給の体験 ③研究倫理について④質疑応答

井上 知洋（聖学院大学人文学部准教授）

平 修久（聖学院大学政治経済学部教授，副学長）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者26名】

(2) 2020年2月12日

研究公正委員会主催「公正な研究活動の推進におけるコンプライアンス教育」研修会

①趣旨説明 ②研修 ③質疑応答 ④アンケート・誓約書・実態調査記入、提出等

中安 豪（ロバストジャパン株式会社）

会場：聖学院大学ディサイプル館2階会議室【参加者86名】

同研修会は、終了後学内限定の動画配信を実施。

2020年度

(1) 2021年2月10日

研究公正委員会主催・本研究会共催

「公正な研究活動の推進におけるコンプライアンス教育」研修会

①趣旨説明 ②研修 ③質疑応答 ④アンケート・誓約書・実態調査入力、提出等

開催方法：オンライン（Zoom）

同研修会は、終了後学内限定の動画配信も実施。

誓約書は別途回収。

研究成果公開

- 1) 2018年度「競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会」報告
『総合研究所Newsletter』Vol.28, No.1, p.63, 2018 (2018.10)
- 2) 2019年度「競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会」報告
『総合研究所Newsletter』Vol.29, No.1, p.37, 2019 (2019.10)
- 3) 2019年度「公正な研究活動の推進におけるコンプライアンス教育」研修会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.30, No.1・2, p.14, 2020 (2021.3)
- 4) 2020年度「公正な研究活動の推進におけるコンプライアンス教育」研修会報告
『総合研究所Newsletter』Vol.30, No.1・2, pp.26-27, 2020 (2021.3)

14 アクティブ・ラーニング研究（基礎総合教育研究）

（研究代表：井上兼生 聖学院大学人文学部日本文化学科特任教授）

「アクティブ・ラーニング」という言葉は一義的な定義づけを許さない複合的な概念であるが、またそれは2つの異なる学修内容によって区別される。すなわちそれは「一般的なアクティブ・ラーニング」と「高次のアクティブ・ラーニング」である。かつては「アクティブ・ラーニング」という言葉自体が多くの大学人にとって馴染みのないものであったが、現在ではかなり一般的に理解されるようになってきているためである。その背景としては、2012年度末に中教審がアクティブ・ラーニングの重要性を指摘したことが挙げられている。そのため既に多くの大学でその必要性が認められているのみならず、実際にカリキュラムへ導入しているところも少なくない。そのような状況下にあつて、本学においてもアクティブ・ラーニングの導入と実践は、ますます看過することのできない課題となつてきており、課題であるアクティブ・ラーニングの導入に関する問題は山積している。よつて、2013年度後半より始まつた本共同研究プロジェクトへの期待は大きい。

〈研究組織〉（2020年度時）

氏名	所属・職名	〔研究分担・構成員〕
井上 兼生	聖学院大学人文学部日本文化学科特任教授	〔研究代表〕
渡邊 正人	聖学院大学基礎総合教育部教授	〔代表補佐〕
齊藤 伸	聖学院大学基礎総合教育部特任助手	〔研究員〕

2018年度

(1) 2018年10月22日

2018年度アクティブ・ラーニング研究会（聖学院大学FD・SD委員会
共催）

「玉川大学におけるアクティブ・ラーニングの推進と学修成果の可視化」
稲葉 興己（玉川大学教学部長）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室〔第一会議室〕〔参加者26名〕

2019年度

(1) 2019年8月23日

2019年度第1回アクティブ・ラーニング研究会

(一般社団法人 アクティブ・ラーニング協会主催・株式会社Findアクティブラーナー・聖学院大学FD・SD委員会共催)

「第10回アクティブ・ラーニングフォーラムin埼玉」

西川 純 (上越教育大学教職大学院教授)

中島 博司 (茨城県立並木中等教育学校校長)

棚谷 克彦 (茨城県立結城第一高等学校教諭)

野澤 宏光 (栃木県立黒磯南高等学校教諭)

会場：聖学院大学チャペル【参加者103名】

(2) 2020年2月19日

2019年度第2回アクティブ・ラーニング研究会 (聖学院大学FD・SD委員会共催)

「アクティブ・ラーニングと可視化——本学の取組み」

渡邊 正人 (聖学院大学基礎総合教育部教授)

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者19名】

2020年度

(1) 2021年3月1日

2020年度アクティブ・ラーニング研究会 (聖学院大学FD・SD委員会共催)

「オンライン授業における空間共有という課題」

発題①「『主体的・対話的で深い学び』を目指すオンライン授業」

井上 兼生 (聖学院大学人文学部特任教授)

発題②「ラーニングセンターに寄せられた相談から」

齊藤 伸 (聖学院大学基礎総合部特任助手)

発題③「日本語授業における事例から」

岡村 佳代 (聖学院大学基礎総合部教授)

開催方法：オンライン (Teams)【参加者17名】

研究成果公開

- 1) 2018年度第1回アクティブ・ラーニング研究会報告
『総合研究所 Newsletter』 Vol.28, No.2, pp.77-78, 2018 (2019.3)
- 2) 2019年度第1回アクティブ・ラーニング研究会報告
『総合研究所 Newsletter』 Vol.29, No.1, pp.39-40, 2019 (2019.10)
- 3) 2019年度第2回アクティブ・ラーニング研究会報告
『総合研究所 Newsletter』 Vol.29, No.2, p.51, 2019 (2020.3)

(3) 研究助成

総合研究所を起点とした大学全体の研究の活性化と研究者支援，さらには研究を基盤とした競争力の強化を目指すため，2020年度，研究助成制度を創設した。本研究制度は，本学教員（含・研究所特別研究員）を代表研究者とする研究計画を対象とし，最大3年間の研究助成を行うものである。

2020年度の採択結果は次のとおり。

1. 研究課題 「ソーシャルメディア・アーカイブに対する“国民の意識”：つぶやきは社会的記録となるか」
研究代表 塩崎 亮（基礎総合部准教授）
メンター 山地 一禎（国立情報学研究所教授）
2. 研究課題 「被災地における愛着上の課題を抱える震災未経験児の増加に関する基礎研究：愛着上の課題を抱える幼児・児童の成長的变化を捉えるチェックリストの作成」
研究代表 大橋 良枝（心理福祉学部教授）
共同研究者 足立 智昭（宮城学院女子大学教授），平野 幹雄（東北学院大学教授），柴田 理瑛（東北福祉大学講師）
メンター Peter Fonagy（Professor, OBE, FBA, FAcSS, FMedSci）

(4) プロジェクト研究

2020年度、総合研究所の研究活動の活性化のため、新たにプロジェクト研究として以下の研究を設置した。

・「高齢者福祉研究」 研究代表：長谷部雅美 共同研究者：古谷野亘

(5) 聖学院大学総合研究所発行物

聖学院大学総合研究所紀要No.65, 2018 (314頁, 2018年3月29日発行)

聖学院大学総合研究所紀要No.66, 2019 (310頁, 2020年3月31日発行)

聖学院大学総合研究所紀要No.67, 2020 (284頁, 2021年3月31日発行)

『総合研究所Newsletter』 Vol.28, No.1, 2018 (67頁, 2018年10月31日発行)

『総合研究所Newsletter』 Vol.28, No.2, 2018 (95頁, 2019年3月29日発行)

『総合研究所Newsletter』 Vol.29, No.1, 2019 (44頁, 2019年10月31日発行)

『総合研究所Newsletter』 Vol.29, No.2, 2019 (53頁, 2020年3月31日発行)

『総合研究所Newsletter』 Vol.30, No.1・2, 2020 (合併号, 41頁, 2021年3月31日発行)

目次及び本文等は聖学院学術情報発信システム「SERVE」で公開されている。<https://serve.repo.nii.ac.jp>

(6) その他イベント

1. 2018年9月11日 文献管理ソフト「EndNote」講習会「文献管理・論文作成支援ソフトEndNote X9紹介」(聖学院大学4号館4階4405号室)【参加者11名】

講師：鈴木 啓介 (ユサコ株式会社)

日本総代理店であるユサコ株式会社EndNoteの基本的な操作方法のほか、新たに追加された機能や活用法について、実演・解説がなされた。

2. 2018年9月16日 天狼院書店主催『ベイズの誓い』発刊記念イベント「話題のAI・シンギュラリティについてベイズ統計学の第一人者が語る！」(天狼院書店Esola池袋店)【参加者20名】

対談：松原 望 (東京大学名誉教授)

小島 寛之 (帝京大学経済学部教授)

『ベイズの誓い』の著者でベイズ統計の第一人者である松原望先生と、松原先生の東大時代の教え子で、帝京大学経済学部教授、経済学者で数学エッセイストの小島寛之氏による対談イベントが開催された。

3. 2018年11月24日 聖学院大学総合図書館主催・総合研究所後援
「聖学院大学創立30周年記念 学術と音楽の集い 宗教改革500+1年」
(聖学院大学チャペル)【参加者第1部65名、第2部37名】

第1部 記念講演会「学術の集い 多極化する社会とキリスト教の可能性」

講演「ルターの自由理解は、文化の壁を越えることができるか？」

ゲルハルト・ヴェグナー (Gerhard Wegner)

(EKD社会科学研究所長、マールブルク大学教授、実践神学)

講演「世界社会における、キリスト教、人間愛、人権」

ヨハネス・ヴァイス (Johannes Weiß)

(カッセル大学名誉教授、文化社会学、社会哲学)

第2部 記念音楽会「音楽の集い 祈りのうた——時を越え、国境を越え、いま私達と共にある音楽」

展示 本学図書館所蔵のルター関連資料及び明治期の和綴じ聖書資料

創立30周年および宗教改革から500+1周年を記念し、キリスト教プロテスタンティズムを主題とする学問と音楽に交わる機会として企画・開催された。第1部の記念講演会(政治経済学部共催)では、二つの講演と、清水正之学長・教授、土方透教授にからのコメントおよび討論が行われた。第2部の記念音楽会(人文学部共催)では、前半は「詩編と歌」、後半は「広がる祈りの歌」をテーマに久保田翠准教授とコロスタシアアネックスAnnexによる演奏が行われた。

4. 2021年1月9日 環日本海経済研究所・東京大学先端科学技術研究センター共催 聖学院大学総合研究所後援 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」(ホテル日航新潟30階「鳳凰」)(同時Zoomウェビナー配信)【参加者 来場9名+Web138名+パネリスト・スタッフ7名】

セッション1「北朝鮮の経済・貿易システム」

講師：中川 雅彦 (アジア経済研究所 主任研究員)

司会：宮本 悟 (聖学院大学教授)

コメンテーター：池内 恵 (東京大学教授)

中西 嘉宏 (京都大学准教授)

セッション2「中国との貿易・交流」

講師：堀田 幸裕 (霞山会主任研究員)

司会：宮本 悟 (聖学院大学教授)

コメンテーター：松田 康博 (東京大学教授)

山根 健至 (福岡女子大学准教授)

セッション3「ロシアやモンゴル等との貿易・交流」

講師：三村 光弘 (環日本海敬愛研究所主任研究員)

司会：池内 恵 (東京大学教授)

コメンテーター：玉田 芳史 (京都大学教授)

本名 純 (立命館大学教授)

科研費「北朝鮮の体制の持続性の根拠：中東・東南アジア・アフリカとの国際的ネットワーク」(JP20H01470 研究代表・宮本悟)の活動の一環としてシンポジウムが開催された。開催は対面とオンライン(Zoomウェビナー)の同時開催とし、総合研究所は後援の形で運営の一部を支援した。